

「じーじー」との約束

福井県

福井養正館

小学6年 中村将希

「じーじー、行ってきます。」

「天国から今日の試合を見ててください。」

僕は、大会や錬成会に行く前に「じーじー」の写真に向かって必ず言う言葉です。僕が大好きだった「じーじー」は、一年半前の五年生になる前に、急に天国に逝ってしまいました。あれだけ元気だった「じーじー」が突然の出来事でした。

僕の「じーじー」は剣道が大好きで、敦賀の剣道の発展に大きく貢献し、また、敦賀の保護者の皆さんが子供のために力強く応援できる組織を作った自慢の「じーじー」です。

僕が剣道を始める前から、

「早く剣道を始めて強くなれ！」

といつも声をかけてくれていました。小学二年生から剣道を始めると、会うたびに

「強くなったか？」

「まだか？」

「試合はいつや？」

と言ってくれていました。

小学三年生の市民剣道大会、級別の個人戦で初めて優勝することができました。大会長であった「じーじー」から賞状と優勝カップ、メダルをもらいました。

「うれしくて、うれしくて・・・」

表彰式のあと「じーじー」から

「もっと強くなって、レギュラーになり、団体戦で優勝できるようにがんばれ！」

と言われました。

学年が上がるにつれ、道場の稽古もきつくなり、試合にも勝てず、自分の気持ちが折れそうになった時もありましたが、自分に負けそうになった時は、

「じーじー」に言われたように、

「団体戦でレギュラーになって試合を見てもらうんだ。」

と自分に言い聞かせ、厳しい稽古に打ち込みました。

お父さんからは、

「見えない努力をしない選手は絶対に強くない！」

と言われ、自分なりにどうしたらいいのか考えました。

僕は保育園からスイミングスクールにも通っています。このスイミングの練習は必ず剣道につながると考え、トレーニングのつもりで一生懸命泳ぎました。それと僕のお父さんは毎日起きた後、鏡の前で竹刀を持って構えをチェックしている姿を小さい頃から見てきました。それを見て、僕も何かやろうと考え、朝起きて鏡の前で、バットと竹刀を持って素振りをする事決めました。

「一振り、一振り、心を込めて」

朝の素振りは

「今日も一日頑張ろう！」

という気持ちになります。休日の朝早い出発の遠征の前も必ずやります。この素振りは三年間一日も欠かしたことはありませんし、「じーじー」の葬儀の朝、棺の横でもしっかり素振りをしました。

「じーじーが僕の剣道姿を見てくれる最後の日だ。」

そう思いながら必死に竹刀を振りました。

試合前、僕は心の中で「じーじー」にお願いします。

「2分間しっかり見ててね！」

今年の夏も日本武道館でレギュラーとして試合をすることができました。垂れの名札の中には、東京まで来ることができなかった「ばーばー」と天国にいる「じーじー」の写真を入れて試合に臨みました。結果は三回戦敗退。

「まだまだ努力が足りない！」

「将希、もっともっと頑張れ！」

そうじーじーの声が聞こえた気がします。

僕は今日まで、多くの人に支えられて剣道を続けることができています。そ

んな中で、僕の一番の応援団であり、心の支えだった「じーじー」の死と直面し、

「時間は決して止められない」

という事と、

「命の大切さ。」

をあらためて知ることができました。「じーじー」もまだまだやりたいことがあったと思います。「じーじー」がいなくなってしまうこと、それは、

「今やらなければいけないこと、今だから出来ること考え、今後の僕の剣道人生の中で大切にすること。」

それは「じーじー」がいつも言っていた言葉

「渾身満力」

の意味をなすところであり、「じーじー」が僕にくれた最高のプレゼントだからです。

「じーじー、本当にありがとう」

「じーじー 今日も行ってきます。」